



ウイトラレポート 2009年12月号

「情報通信産業の転換点」

はじめに

2009年も終わりに近づいてきた。世界経済は持ち直してきているとはいふものの、政策的の需要により一時的に回復してきているのか、本格的な回復に入っているのかは見極めの難しいところであり、しばらくは一進一退の状況が続くだろう。日本経済は世界需要が落ち込んだところへ政府の内需重視の政策があり産業の牽引役であった輸出企業の回復が遅れている。その内需もサラリーマン世帯の収入減少と先行き不安から、仮に一時金をばらまいたとしても貯蓄に回ってしまい内需の進行にはなかなかつながらない、という欧米よりももたついた回復になるだろう。この傾向は既に株価の上にあらわれている。

我々の関係する情報通信産業は、この世界経済の影響を受けていると同時に、技術的観点からも大きな曲がり角に来ている感じがしている。年末ということもあるので、今月のウイトラレポートは従来の調査レポートという視点からは少し変えて、私の情報通信産業に対する現在の状況の分析と将来への見通しをマクロな視点から論じてみたいと思う。